

被構文の基本-講義

→ [問題演習](#) [把被構文ドリル](#) [exercise](#) [chinese](#) [grammar](#)
<https://study.bem130.com/exercise/chinese/grammar/把被構文ドリル-問題演習/>

1 導入

被構文は、動作主ではなく影響を受ける側を主語にする受身表現である。ただし、日本語の受身より使用範囲は狭く、不利益や予想外の出来事を述べる場面で現れやすい。

2 核心

被構文の基本形は、[主語/しゅご] + [被/bèi] + [動作主/どうさしゅ] + [動詞/どうし] (+ [結果/けっか]) である。動作主は省略されることもある。

Correct

wó de shǒujī bèi tā ná zǒu le
我的手机被他拿走了。

[GRM] 携帯電話が持って行かれたという受身である。

3 直感

被構文は、被害や影響を受けた側から出来事を描く型である。日本語のように中立的な受身まで広く使うわけではないため、使いどころを絞ることが重要である。

4 成立しやすい場面

4.1 1. 不利益を受けた場面

Correct

wǒ bèi lǎoshī pīpíng le
我被老师批评了。

[GRM] 批評されるという不利益が前面に出ている。

4.2 2. 予想外の変化

Correct

chuānghu bèi fēng chuī kāi le
窗户被风吹开了。

[GRM] 窓が風によって開いたという結果を受身で述べている。

4.3 3. 動作主を示さなくてもよい場面

Correct

zuòyè bèi gǎihǎo le
作業被改好了。

[GRM] 誰が直したかより、宿題が修正済みになったことを重視している。

5 避けるべき誤用

- 単純な客観描写を何でも被構文にする。
- 動作主も影響も曖昧なまま使う。
- 日本語の自動受身に引きずられて過剰に使う。

Incorrect

wǒ bèi qù xuéxiào
我被去学校。

[GRM] 受身の対象も結果も成立していない。

6 把構文との対比

把構文は処置する側から述べる。被構文は影響を受ける側から述べる。この視点の差を固定すると、場面に応じて構文を選択しやすい。

7 見分け方

- 主語が被害や影響を受けた側なら、被構文を検討する。
- 結果補語と一緒に置けるかを確認する。
- 日本語の受身をそのまま直訳しない。

8 関連リンク

→ [講義](#) [把構文の基本](#) [lecture](#) [chinese](#) [grammar](#)
<https://study.bem130.com/lecture/chinese/grammar/把構文の基本-講義/>

→ [問題演習](#) [把被構文ドリル](#) [exercise](#) [chinese](#) [grammar](#)
<https://study.bem130.com/exercise/chinese/grammar/把被構文ドリル-問題演習/>